$$\begin{pmatrix}
0 & \lambda & (1+\lambda & 0) \\
0 & 1
\end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix}
0+\lambda & \lambda & \lambda \\
0+\lambda & \lambda
\end{pmatrix}$$

$$\lambda = -1 \text{ Eghit} \begin{pmatrix}
0 & \lambda & 27:33 \\
0 & d
\end{pmatrix}$$

$$\lambda = -1 \text{ Eghit} \begin{pmatrix}
0 & \lambda & 27:33 \\
0 & d
\end{pmatrix}$$

§8.4 行列の階数

これからうすが、仕意のAEMmm(な)に対し、はき出し法によって 以下の开かが一意に得られる。

このトをAの階数(rank)といい、rank A=rと書く。 るに(*)をAの階数標準形という。

すずは、あらゅる対列に対し槽·準形が得られることをする。

灾理.

任意のA∈Mmn(よ)に対し階数標準形が存在する。 (証明)

1) Aの(1,1)成立がりでなければ2)ハ. Oのときは他の. 1列目がりでない行列をCijにより持ってくる。 2)、

を得る。これに Ð(Q11) を掛けると Q11 は1になり

$$\begin{pmatrix}
1 & 0 & \cdots & 0 \\
0 & & A' & \\
0 & & &
\end{pmatrix}$$

が得られる。

3) A'に対して同様の変形を行う。すると.

が得られる。これを繰り返して、右下の行列が〇になったといるで終了すかでない。

※どんな予順で標準形を作ってり同じ行列になる。 このことは9.4で示される。

$$\begin{pmatrix}
2 & | & | & 2 \\
0 & 5 & 3 & 2 \\
-| & 2 & | & 0
\end{pmatrix}
\xrightarrow{E_{23}(-1)}
\begin{pmatrix}
2 & 0 & | & 2 \\
0 & 2 & 3 & 2 \\
-1 & 1 & 1 & 0
\end{pmatrix}
\xrightarrow{E_{4,1}(-1)}
\begin{pmatrix}
2 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 2 & 3 & 2 \\
-1 & 1 & 1 & 1
\end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix}
2 & 0 & 2 \\
1 & 0 & 1
\end{pmatrix}
 \stackrel{\cdot}{\vdash} = \underbrace{31}_{31}(-1) \\
1 & 0 & 0
\end{pmatrix}
 \stackrel{=}{\vdash} 31(-\frac{1}{2}) \\
0 & 0 & 0
\end{pmatrix}$$